

肥育前期に濃厚飼料を多給した短期肥育における 枝肉成績は通常出荷(全国平均)と同等である

福島県農業総合センター 畜産研究所 沼尻分場

1 部門名

畜産 - 肉用牛 - 畜産栄養

2 担当者名

妹尾毅、遠藤幸洋、佐藤亮一

3 要旨

近年、配合飼料価格が高騰し肥育経営を圧迫していることから飼料費の低減を図るため、一貫経営において肥育前期に濃厚飼料を多給する短期肥育を実施した。

その結果、肥育前期に濃厚飼料を多給した区の枝肉成績は、対照区に比べ皮下脂肪が薄く、通常出荷（全国平均）と同等であった。両区とも全国平均より飼料費は低減し、肥育回転率が上がることで収益性が向上したと考えられた。

- (1) 前期期間中の前期多給区の濃厚飼料摂取量は対照区の 109%であった(表 1)。
- (2) 前期多給区の枝肉成績は対照区に比べ皮下脂肪が薄く、全国平均と同等であった(表 2)。
- (3) 両区とも全国平均より飼料費は低減し、肥育回転率が上がることで収益性が向上したと考えられた(表 3)。

表1 前期期間中における飼料摂取量

	(単位:kg/頭)	
	濃厚飼料	粗飼料
前期多給区 (n=5)	1057.1 (109%)	149.7 (99%)
対照区 (n=5)	969.5 (100%)	151.9 (100%)

注1 重量比

注2 括弧内は対照区を100%とした割合

表2 枝肉成績

	(単位:kg,cm ² ,cm)								
	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪	歩留基準値	BMSNo.	左記内訳	
前期多給区 (n=5)	25.6 ± 0.157	501.3 ± 10.59	65 ± 1.8	8.1 ± 0.37	2.0 ± 0.16 ^a	75.1 ± 0.359	8 ± 1	10,9,9,8,6	
対照区 (n=5)	25.2 ± 0.287	485.0 ± 16.02	64 ± 4.2	8.2 ± 0.27	2.4 ± 0.14 ^b	74.9 ± 0.579	8 ± 1	11,9,9,6,4	
全国平均 ^{注1}	29.4	514	66	8.2	2.5	74.9	8		

注1 全国平均(去勢)「令和2年度枝肉成績とりまとめ(国)家畜改良センター」より。

注2 平均値±標準偏差。

注3 枝肉重量、ロース芯面積、バラ厚、皮下脂肪、歩留基準値、BMSNo.について異符号間に有意差。(t-test, p<0.05)

表3 1頭あたりの収支(試算)

	(単位:円(税込),日)						
	販売価格 A	導入価格 ^{注1} B	飼料費 C	収支 D (A-B-C)	肥育日数 E	肥育回転率 F (365日/E)	年間収支 D*F
前期多給区 (n=5)	1,179,565	830,447	306,830	42,288	501	0.73	30,809
対照区 (n=5)	1,203,326	830,447	292,121	80,758	488	0.75	60,403
全国平均 ^{注2}	1,205,545	830,447	334,711	40,387	627	0.58	23,511

注1 導入価格は「令和2年度畜産物生産費統計(去勢若齢肥育牛1頭あたり(農林水産省))」のもと畜費を用いた。

注2 「令和2年度畜産物生産費統計(去勢若齢肥育牛1頭あたり(農林水産省))」より。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和2年度～令和3年度
- (2) 研究課題名 肉用牛の安定生産技術の確立〔JAグループ福島による福島県産農産物競争力強化事業、JAグループ福島寄附金〕

5 主な参考文献・資料

なし